

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-180774

(43)Date of publication of application : 02.07.2003

(51)Int.Cl.

A61H 7/00

A61H 23/02

(21)Application number : 2002-344827

(71)Applicant : FUJI IRYOKI:KK

(22)Date of filing : 24.03.1997

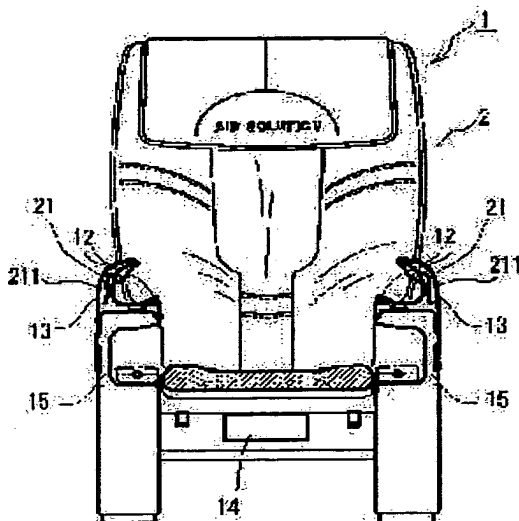
(72)Inventor : YAMANAKA NORTYUKI
FUJISHIRO MITSUAKI
YOSHIDA MASARU
WADA MASAKI

(54) THERAPEUTIC DEVICE QUIPPED WITH HAND MASSAGING FUNCTION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide the therapeutic device equipped with the hand massaging function which is capable of stably loading the hand and arm sections thereon for effective treatment by intermittently applying appropriate compressed air onto the human hand sections.

SOLUTION: The therapeutic device is equipped with a means for supplying and exhausting the compressed air (a unit 14 for supplying and exhausting the compressed air through the contraction and expansion bag 12 and the respective hoses 13, 13 attached to each contraction and expansion bag 12, 12) that can afford the treatment by contraction and expansion for the human hand sections 3 to be appropriately loaded on the upper surface of the chair body 2 installed on the arm rest section 21 along the arc-shaped standing walls 211 formed one-sidedly over the elbow width, where an operator in his sitting position can stably hold the human hand sections 3 on the upper surface of the arm rest sections 21, 21 on both sides for effective treatment with the compressed air to be applied from the upper side surface of the human hand sections 3 as well as the arm sections.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

26.12.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-180774

(P2003-180774A)

(43)公開日 平成15年7月2日(2003.7.2)

(51)Int.Cl.

A 6 1 H 7/00

識別記号

3 2 2

F I

A 6 1 H 7/00

テマコト(参考)

3 2 2 E 4 C 0 7 4

3 2 2 F 4 C 1 0 0

23/02

3 4 4

23/02

3 4 4

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 7 頁)

(21)出願番号 特願2002-344827(P2002-344827)

(62)分割の表示 特願平9-88772の分割

(22)出願日 平成9年3月24日(1997.3.24)

(71)出願人 000136491

株式会社フジ医療器

大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目5番21号

(72)発明者 山中 宣幸

大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目5番21号

株式会社フジ医療器内

(72)発明者 藤代 光明

大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目5番21号

株式会社フジ医療器内

(72)発明者 吉田 勝

大阪府大阪市浪速区日本橋5丁目5番21号

株式会社フジ医療器内

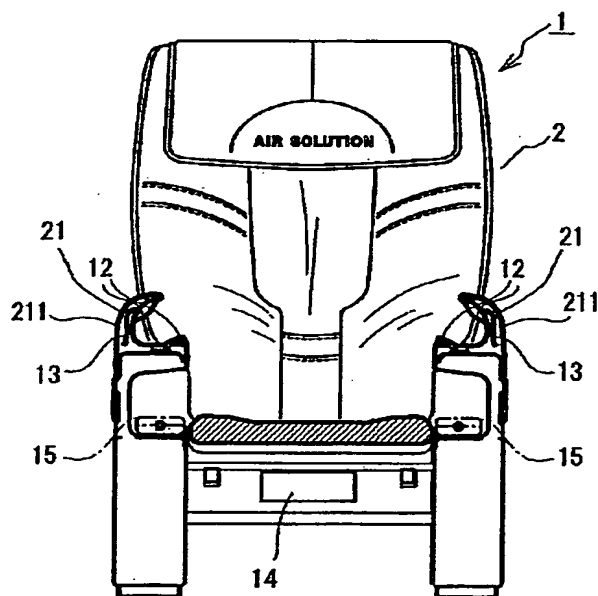
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 手揉機能付施療機

(57)【要約】

【課題】 手部及び腕部を安定的に載設して、人体手部に対する断続的な圧迫を適宜に加えて効果的な空圧施療を行える手揉機能付施療機を提供する。

【解決手段】 肘幅方向一側に弧状形成された立上り壁211を設けた肘掛部21を両側に設けた椅子本体2の上面適所に人体手部3を各々載脱自在で該人体手部2に膨縮施療を付与し得る圧縮空気給排気手段(膨縮袋12と、各膨縮袋12・12に各々ホース13・13を介して連通される圧縮空気給排装置14)を配設して成り、施療者が着座状態で人体手部3を両肘掛部21・21上面に安定的に保持させて、人体手部3及び腕部の上側面から効率良く空圧施療する事ができるよう構成したものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 椅子本体の両肘掛部の上面適所に人体手を各々載脱自在で該人体手部に膨縮施療を付与し得る圧縮空気給排気手段を配設した手揉機能付用施療機であって、該施療機の前記各肘掛部が、肘幅方向一侧に弧状形成された立上り壁を設けた肘掛部である事を特徴とする手揉機能付施療機。

【請求項2】 前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋と、各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成する事を特徴とする請求項1記載の手揉機能付施療機。

【請求項3】 前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋及び肘幅方向他側に配設される膨縮袋と、両各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成する事を特徴とする請求項1記載の手揉機能付施療機。

【請求項4】 前記両肘掛部に配設される膨縮袋が、二以上の膨縮袋を重合させた膨縮袋群である事を特徴とする請求項2及び請求項3記載の手揉機能付施療機。

【請求項5】 前記両肘掛部に配設される膨縮袋の人体手当接側に、膨縮施療を強度に付与し得る施療突起を配設した事を特徴とする請求項2乃至請求項4記載の手揉機能付施療機。

【請求項6】 前記両肘掛部上面を振動させるに振動部材を適所に配備させた事を特徴とする請求項1乃至請求項5記載の手揉機能付施療機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、圧縮空気の給排に応じて膨脹・収縮する膨縮機構によって、施療者の手部に断続的に圧迫を加えて施療を行なう機構を備えた手揉機能付施療機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の椅子式マッサージ機は、例えば、空気圧利用式のものにおいては、リクライニング可能な背凭れ部に、人体の腰部や背部や頸部をマッサージする為に、空気圧変化によって膨脹・収縮する袋体を内装し、また、座部に、臀部や大腿部をマッサージする為の前記同様の袋体を、内装して構成したものが一般的に知られている。

【0003】 また、近年においては、前記のような構成に加えて、脚部をマッサージする為の上記同様の袋体を内装した出脱可能な脚載せ部を設けて構成した椅子式空気圧マッサージ機も周知のものとなっている。

【0004】 上記のような椅子式空気圧マッサージ機においては、上記人体各部位に対応するように配設された各々の袋体に空気の吸排気を行わせるよう、これにホースを介して圧縮空気給排装置を連通させる必要がある。

【0005】 またこの圧縮空気給排装置は、例えば座部の下などに内装されるよう設置されるのであるが、該給

排装置から給排される圧縮空気は、前記ホースを介して袋体を膨脹及び収縮させ、上記人体各部位を断続的に圧迫してマッサージを行なうことができ、揉み玉やローラー等によるマッサージに比較して、摩擦の少ないマッサージができるようにしている。

【0006】 また、上記椅子式空気圧マッサージ機を採用した椅子の、背凭れ部にリクライニング機構を設け、脚載せ部に出脱機構を設けることにより、使用者の身体を略水平な状態にでき、この状態で空気圧マッサージを行えるため、比較的快適な状態でのマッサージを行う事ができる。

【発明が解決しようとする課題】

【0007】 この種従来の椅子式空気圧マッサージ機においては、空気圧変化によって膨脹及び収縮する袋体を背凭れ部や座部の他、他部位に亘って配設させることができ、これら各袋体に空気を給排気させて、それぞれ、人体の、腰部や背部の他、頸部や臀部或は大腿部や脚部に適度な空気圧マッサージを施す事ができるのであるが、人体の局部における、特に手に対する空気圧マッサージを施す事ができず、またこのような手부를専門的にマッサージできるような局部専用マッサージ機も開発されていないのが現状である。

【0008】 本発明は、上記のような問題点に鑑みてなされたものであり、手及び腕部を安定的に載設して、手及び腕部に対する効果的な空圧施療を行える手揉機能付施療機を提供する事を目的としてなされたものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】 すなわち、本発明の手揉機能付施療機は、椅子本体の両肘掛部の上面適所に人体手を各々載脱自在で該人体手部に膨縮施療を付与し得る圧縮空気給排気手段を配設した手揉機能付用施療機であって、該施療機の前記各肘掛部が、肘幅方向一侧に弧状形成された立上り壁を設けた肘掛部に各々形成して、人体手部を両肘掛部上面に安定的に保持させて手部に効率良い空圧施療を行なわせる事ができるようにする事を特徴とするものである。

【0010】 また本発明の手揉機能付施療機は、前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋と、各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成して、人体手部を両肘掛部上面に安定的に保持させて立上り壁側の膨縮袋により手側方を効率良く空圧施療を行なわせる事ができるようにした事を特徴とするものである。

【0011】 更に本発明の手揉機能付施療機は、前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋及び肘幅方向他側に配設される膨縮袋と、両各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成し、人体手部を両肘掛部上面に安定的に保持させて立上り壁側の膨縮袋と肘幅方向他側に配設される

膨縮袋により、手部両側を挾持して効率良く空圧施療を行なわせる事ができるようにした事の特徴とするものである。

【0012】更にまた本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部に配設される膨縮袋が、二以上の膨縮袋を重合させた膨縮袋群に構成し、手部に強度な空圧施療を効率良く行なわせる事ができるようにした事の特徴とする。

【0013】また、本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部に配設される膨縮袋の人体手部当接側に施療突起を配設し、手部に強度な空圧施療を適格に付与する事ができるように構成した事の特徴とするものである。

【0014】更に本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部上面を振動させるに振動部材を適所に配備させ、手部に振動部材による振動施療と膨縮袋による圧空施療とを同時或いは単独で任意に行なわせる事ができるように構成した事の特徴とする。

【0015】よって、本発明の手揉機能付施療機は、上記のように構成することにより次のような作用をもたらす。まず、本発明の手揉機能付施療機においては、肘幅方向一側に弧状形成された立上り壁を設けた肘掛部を両側に設けた椅子本体の上面適所に、人体手部を各々載脱自在で該人体手部に膨縮施療を付与し得る圧縮空気給排気手段を配設している為、施療者は着座状態で人体手部を両肘掛部上面に安定的に保持させて、人体手部及び腕部の上側面から効率良く空圧施療する事ができる。

【0016】また、本発明の手揉機能付施療機は、圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋と、各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成している為、立上り壁側の膨縮袋により人体手部及び腕部を上側面から効率良く空圧施療を行なわせる事ができる。

【0017】更に本発明の手揉機能付施療機は、前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋及び肘幅方向他側に配設される膨縮袋と、両各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成している為、人体手部を立上り壁側の膨縮袋と肘幅方向他側に配設される膨縮袋により両側から挾持して、人体手部及び腕部を上側面と下部から効率良く空圧施療・空圧挾持施療・空圧押し施療を行なわせる事ができる。

【0018】更に、本発明の手揉機能付施療機は、両肘掛部に配設される膨縮袋が、二以上の膨縮袋を重合させた膨縮袋群に構成している為、人体手部及び腕部を膨縮袋群の膨縮袋で順次相乗的に挾持して強度で圧迫感のある空圧施療を効率良く行なわせる事ができるのである。

【0019】また、本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部に配設される膨縮袋の人体手部当接側に施療突起を配設している為、膨縮袋の人体手部当接側が膨張した場合にこの施療突起が該手部や腕部に当接し、これに

よる強度な空圧施療を適格に付与する事ができる。

【0020】更に本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部上面を振動させるに振動部材を適所に配備させている為、施療者が膨縮袋の膨縮動作や振動部材の振動動作を任意に選択して、これらを同時或いは単独で動作させる事で、人体手部や腕部に振動部材による振動施療と膨縮袋による圧空施療と、これら両者による振動圧空施療を適宜に選択実施させる事ができる。

【0021】

【発明の実施の態様】以下、本発明の手揉機能付施療機を、図面に示す一実施形態に基づいてこれを詳細に説明する。図1は、本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す説明図であり、図2は本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排気手段の膨縮袋が収縮した一実施形態を示す説明図であり、図3は本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排気手段の膨縮袋が膨張した一実施形態を示す説明図であり、図4乃至図9は本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排気手段を備えた肘掛部の一実施形態を示す説明図であり、図10は本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す説明図であり、図11は本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す斜視図であり、図12及び図13は本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す使用状態図である。

【0022】すなわち、本発明の手揉機能付施療機1は、図10及び図11に示したように、肘幅方向一側に弧状形成された立上り壁211を設けた肘掛部21を椅子本体2の両側に設けており、その肘掛部21の上面に人体手部3を各々載脱自在で該人体手部2に膨縮施療を付与し得るよう、圧縮空気給排気手段（膨縮袋12と、各膨縮袋12・12に各々ホース13・13を介して連通される圧縮空気給排装置14）を配設して成り、施療者が着座状態で人体手部3を両肘掛部21・21上面に安定的に保持させて、人体手部3及び腕部の上側面から効率良く空圧施療する事ができるように構成したものである。

【0023】また、前記手揉機能付施療機1は、図1に示したように、椅子本体2の両肘掛部21・21の上面適所に固定板11を配設し、該固定板11の上部左右の少なくとも一側に膨縮袋12を配設し、要すれば、該固定板11の上部左右に一定間隔を存して膨縮袋12・12を対設して、これらを各肘掛部21の内部に内装しており、且つ、椅子本体2の座部下に外部電源（図示せず）に接続される圧縮空気給排装置14を配設し、該装置14と各膨縮袋12・12間に各々ホース13・13を介して、圧縮空気給排装置14からの給排気をホース13・13を介して各膨縮袋12・12に連繋させ、各膨縮袋12・12を所定の時間毎のサイクルで繰り返し膨縮させる事ができるようにしている。

【0024】そして、前記図1で示した固定板11の一侧を弧状に曲折して釣針形状に立設させた状態にしてこ

れを肘掛部21に内装させる事で、図10及び図11のような外形状に形成できるものであり、このような状態にする事で施療者は図12及び図13に示したような着座状態で両肘掛部21・21上の人体手部3をその上側面から空圧施療行なうようにする事ができるのである。

【0025】また、前記椅子本体2の両肘掛部21・21の上面適所に配設される膨縮袋12は、前述したように、弧状に曲折した固定板11の上部左右の少なくとも曲折側側に膨縮袋12を配設すれば良いが、該固定板11の上部左右に一定間隔を存して一対の膨縮袋12・12を対設させたり、図2及び図3に示したように、固定板11の上部左右に一定間隔を存して重合状に膨縮袋12・12・12・12（膨縮袋群）を夫々対設させたりする事で、これらに圧縮空気給排気装置14からの圧空を給排気させて膨縮させ、使用者の人体手部3及び腕部を一侧上面側と他側下部側の両側から順次挾持して、圧迫感のある施療を実施する事ができるようになる。

【0026】図4乃至図6は、前記肘幅方向側に弧状形成された立上り壁211を設けた肘掛部21の一実施形態を示すものであり、上記したように椅子本体2に配設された立上り壁211内に、該立上り壁211を有する肘掛部21の上面形状に沿設するよう弧状曲折された固定板11と該固定板11の立上り壁211側に固定配備された膨縮袋12を内装し、該膨縮袋12には圧縮空気給排装置14からの圧空を給排気させる為のホース13が連通状に介設されている。

【0027】また、図7乃至図9は、前記肘幅方向側に弧状形成された立上り壁211を設けた肘掛部21の他の実施形態を示すものであり、上記したように椅子本体2に配設された立上り壁211内に、該立上り壁211を有する肘掛部21の上面形状に沿設するよう弧状曲折された固定板11と該固定板11の立上り壁211側に固定配備された膨縮袋12及び肘掛部21の肘幅方向他側に配設される膨縮袋12とを内装し、両各膨縮袋12・12には圧縮空気給排装置14からの圧空を給排気させる為のホース13が各々連通状に介設されている。

【0028】尚、前記固定板11は、膨縮袋12を配設する際に肘掛部21上面に安定した状態で固定配備させる為のものであるが、その配置場所が安定している場合にはこれを設ける必要はない。

【0029】また図4乃至図9における15は、前記肘掛部21上面を振動させる為の振動部材であり、図面においては、肘掛部21の中間部に配設したものを例示した。

【0030】該振動部材15は、肘掛部21上面を振動させるものであれば錘部材を駆動モータに偏心状に設けたものや電磁式のもの等のどのようなものであっても良く、また、その取付位置も適宜に決定される。

【0031】上記した振動部材15を設けた場合には、施療者が膨縮袋12の膨縮動作や振動部材15の振動動

作を任意に選択する事により、これらを同時或いは単独で動作させる事ができ、具体的には、振動部材15による振動施療と膨縮袋12による圧空施療と、これら両者による振動圧空施療を施療者の人体手部3や腕部に適宜に選択実施させる事ができる。

【0032】22は、圧縮空気給排装置14に接続されるリモコンスイッチ等の外部電源であり、図13ではこの外部電源22を一侧の肘掛部21内側に配設した場合を例示しているが、施療者に容易で安全な電源切替を行なわせる事ができるようにする為に、肘掛部21上面適所或いは肘掛部21の人体手部3指先位置対応位置やその近郊に配備させる事が好ましい。

【0033】尚、前記膨縮袋12は、弾性を有し、空気漏れ防止に有効なポリウレタン等の素材や膨らみ過ぎ防止に有効な6ーナイロン等の合成繊維で袋状に構成されるものであり、例えば、内層の素材に空気漏れ防止に有効なポリウレタン等の合成繊維を使用し、また、外層の素材に膨らみ過ぎ防止に有効な6ーナイロン等の合成繊維を用いて、内外二層を有する袋体としても良い。

【0034】12aは、前記膨縮袋12の上面部に配設された施療突起であり、該施療突起12aを配備させる事で、膨縮袋12の人体手部3当接側が膨張した場合にこの施療突起12aが該手部3や腕部に当接し、これによる強度な圧空施療を適格に付与する事ができるようになる。

【0035】尚、該施療突起12aは、施療袋12上面に一定間隔毎に配備してもよく、また不規則的に設けてもよく、更にその形状や構成も限定されるものではない。

【0036】前記ホース13は、ビニール材等の合成樹脂を中空状に形成されており、該ホース13の基端を圧縮給排気装置14に接続すると共にその至端を前記膨縮袋12に接続し、前記膨縮袋12に圧縮給排気装置14からの給排気を伝達してこれを膨縮させるための仲介をなすものである。

【0037】前記圧縮空気給排装置14は、例えば、電動エアークンプレッサ等の空気圧縮機構を内蔵した装置であり、前記ホース13を介して上記膨縮袋12へ圧縮空気を給排気させるためのものである。

【0038】前記圧縮空気給排装置14は、前述したようにホース13を介して膨縮袋12に連通するよう構成されているが、該圧縮空気給排装置14にロータリバルブ等の給排通路選択切替手段を設ける事で、該給排装置14の給排気口からの給排気を施療者が選択できるようにする事もでき、これにより、各膨縮袋12・12の給排気順を任意に変化させるようにする事もできる。

【0039】また、前記のように給排通路選択切替手段を設ける場合には、前記給排気制御装置（図示せず）のロータリバルブ等の給排通路選択切替手段を制御する電子回路等の制御手段を内蔵させて構成する。

【0040】よって、上記した本発明の手揉機能付施療機1を使用するにあつては、施療者が椅子本体2の座部に着座して人体手部3を肘掛部21上に載設し、圧縮空気給排装置14に接続されるリモコンスイッチ等の外部電源22を入力するだけで該電源22からの電力供給により、人体手部3及び腕部の一侧上面側から効率良く適宜の空圧施療を行なわせる事ができるのである。

【0041】

【発明の効果】よって、本発明の手揉機能付施療機は、肘幅方向一侧に弧状形性された立上り壁を設けた肘掛部を両側に設けた椅子本体の上面適所に、人体手部を安定した状態に各々載脱自在で該人体手部に膨縮施療を付与し得る圧縮空気給排気手段を配設している為、施療者は着座状態で人体手部を肘掛部に載設して電源を入力するだけで、従来のマッサージ機では行い得ない人体手部及び腕部への適度で快適な空圧施療を一侧上面側から効率良く行う事ができる。

【0042】また、本発明の手揉機能付施療機は、圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の各立上り壁に配設される膨縮袋と、各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成している為、施療者は着座状態で人体手部を肘掛部に載設して電源を入力するだけで、立上り壁側の膨縮袋により、従来のマッサージ機では行い得ない人体手部及び腕部への一侧上面側からの適度で快適な空圧施療を効率良く行う事ができる。

【0043】更に本発明の手揉機能付施療機は、前記圧縮空気給排気手段を、両肘掛部の弧状形成された各立上り壁に配設される膨縮袋及び肘幅方向他側に配設される膨縮袋と、両各膨縮袋に各々ホースを介して連通される圧縮空気給排装置とで構成している為、施療者は着座状態で人体手部を肘掛部に載設して電源を入力するだけで、人体手部や腕部を立上り壁側の膨縮袋と肘幅方向他側に配設される膨縮袋により一侧上面側と他側下方との両側から挟持して、従来のマッサージ機では行なえない人体手部及び腕部への適度で快適な空圧施療・空圧挟持施療・空圧押上施療を両側から効率良く行なわせる事ができる。

【0044】更に、本発明の手揉機能付施療機は、両肘掛部に配設される膨縮袋が、二以上の膨縮袋を重合させた膨縮袋群に構成している為、膨縮袋群の各膨縮袋で順次相乗的に挟持して、従来のマッサージ機では行なえない人体手部及び腕部への強度で圧迫感のある空圧施療を効率良く行なわせる事ができる。

【0045】また、本発明の手揉機能付施療機は、前記両肘掛部に配設される膨縮袋の人体手部当接側に施療突起を配設している為、膨縮袋の人体手部当接側が膨張した場合にこの施療突起が該手部や腕部に当接し、これによる強度な空圧施療を適格に付与する事ができるようになる。

【0046】更に本発明の手揉機能付施療機は、前記両

肘掛部上面を振動させるに振動部材を適所に配備させている為、施療者が膨縮袋の膨縮動作や振動部材の振動動作を任意に選択して、これらを同時或いは単独で動作させる事で、従来のマッサージ機では行なえない人体手部や腕部への振動部材による振動施療と膨縮袋による圧空施療や、これら両者による振動圧空施療を適宜に選択実施させる事ができる。

【0047】更に、本発明の手揉機能付施療機は、前記圧縮空気給排気手段の膨縮袋を、両肘掛部の上面適所に配設し、圧縮空気給排装置にロータリバルブ等の給排通路選択切替手段を設け、これを制御する電子回路等の制御手段を内蔵させる構成にして、これらを圧縮空気給排気装置で適宜に膨縮するよう給排機させる構成にできる為、該吸排装置の給排機口からの給排気を施療者が適宜に選択でき、各膨縮袋の給排気順を任意に変化させて施療者の好みの施療を選択使用できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す説明図である。

【図2】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段の膨縮袋が収縮した一実施形態を示す説明図である。

【図3】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段の膨縮袋が膨張した一実施形態を示す説明図である。

【図4】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図5】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図6】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図7】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図8】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図9】本発明の手揉機能付施療機における圧縮空気給排機手段を備えた肘掛部の実施形態を示す説明図である。

【図10】本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す説明図である。

【図11】本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す斜視図である。

【図12】本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す使用状態図である。

【図13】本発明の手揉機能付施療機の一実施形態を示す

す使用状態図である。

【符号の説明】

1 手揉機能付施療機

1 1 固定板

1 2 膨縮袋（圧縮空気給排気手段）

1 2 a 施療突起

1 3 ホース（圧縮空気給排気手段）

1 4 圧縮空気給排装置（圧縮空気給排気手段）

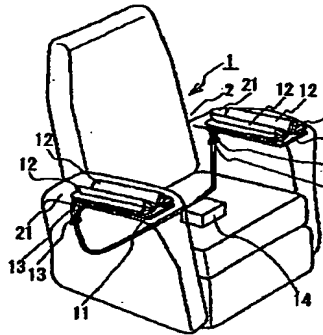
1 5 振動部材

2 椅子本体

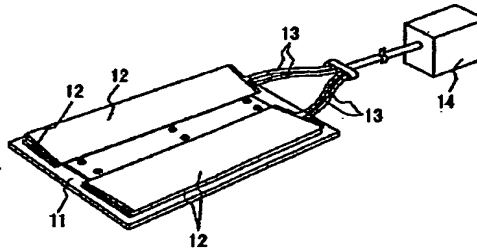
2 1 肘掛部

2 1 1 立上り壁

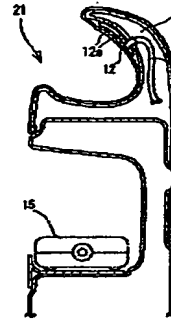
【図1】



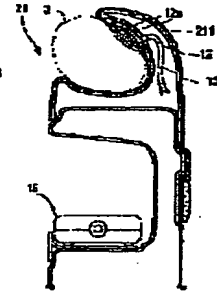
【図2】



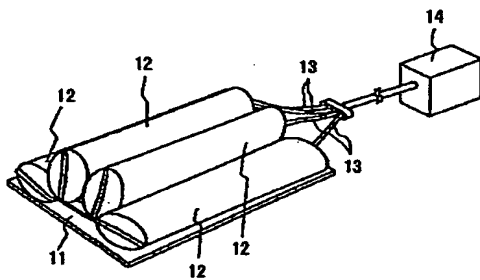
【図4】



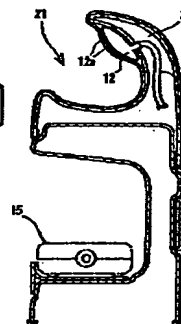
【図6】



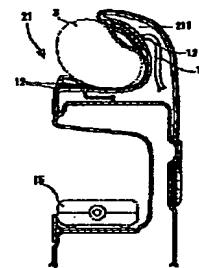
【図3】



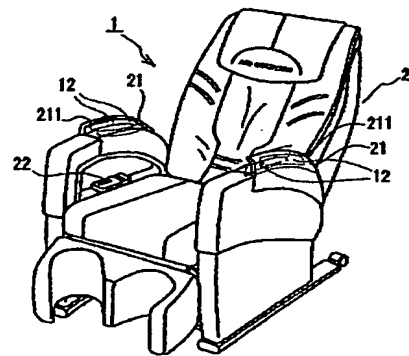
【図5】



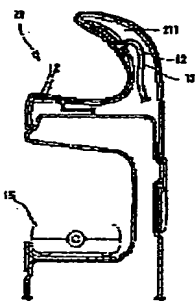
【図9】



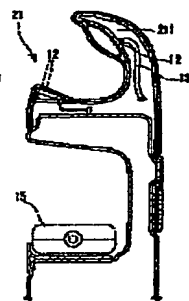
【図11】



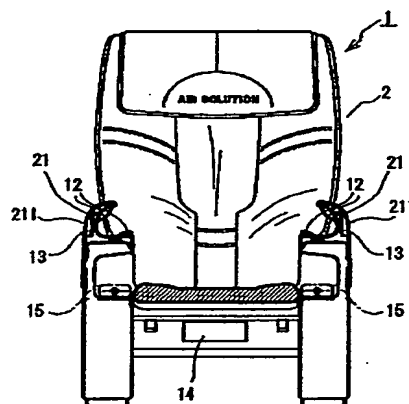
【図7】



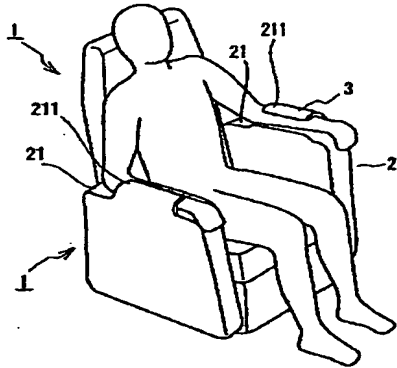
【図8】



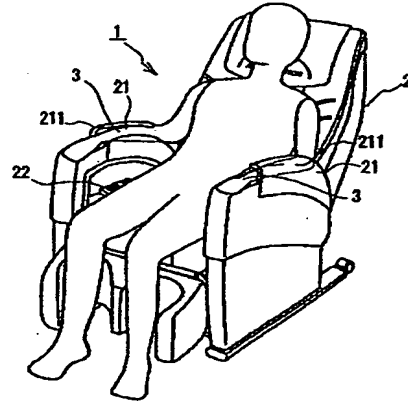
【図10】



【図12】



【図13】



フロントページの続き

(72)発明者 和田 正記
大阪府大阪市北区鶴野町4番A-424号
株式会社プロテックフジ内

Fターム(参考) 4C074 CC01 DD01 GG03 HH02
4C100 AD02 BC11 CA05 DA08 EA09